

北海道新聞 2011 年 7 月 12 日 (火)

＜障害者の使い勝手 配慮した避難所を＞

◎市民団体が市に要望書

札幌の市民団体「災害時要援護者の防災を推進する市民の会」(竹田保代表)は 11 日、地震発生時などに要援護者を受け入れる「福祉避難所」の指定や、避難所のバリアフリー化徹底を求める要望書を市に提出した。

東日本大震災の被災地で障害者や高齢者の避難先確保が問題化していることから、札幌の態勢について「今のままでは備えが不十分」と指摘。

バリアフリー化では、市内に 589 カ所ある指定避難所で 39%にとどまっている車いす対応トイレの設置推進や、段差解消を要望。避難所までの移動手段確保も求めた。

市危機管理対策室は「保健福祉局と連携して対応したい」と、検討を進める考えを示した。竹田代表は「障害者が使いやすい避難所になれば、市民みんなが使いやすくなる。当事者の声を聞いて整備を進めてほしい」と強調した。

(小倉敦)